

林木ジーンバンク事業収集・保存、特性評価戦略検討会について

1. 検討会開催の目的

林木ジーンバンク事業は、昭和60年(1985年)に農林水産省ジーンバンク事業の林木遺伝資源部門の発足からスタートしました。以降、利用上の重要度や保存の必要性、優先度を勘案し、主に育種素材の確保と絶滅危惧種等の保全を目標として進められてきました。事業開始から約30年が経過し、育種事業の次世代化の推進、バイオリソース(生物遺伝資源)の整備、絶滅の危機に瀕している遺伝資源の保全等、林木ジーンバンク事業の一層の戦略的な整備が求められています。

このため、林木育種センターでは、新たな戦略の策定に向け、有識者等による検討会を設置し、多岐にわたる林木遺伝資源のより一層の効率的な収集・保存等を進めるための技術的な課題を検討することとしました。

2. 検討会の構成

有識者として、東京大学の井出教授、宇都宮大学の逢沢准教授、東京農業大学の大林教授、(株)王子ホールディングスの鶴見上級研究員、静岡県森林・林業研究センターの袴田上席研究員、宮田元育種部長、オブザーバーとして、林野庁研究指導課課長補佐、経営企画課課長補佐等に参加いただきました。

3. 開催日程

平成26年2月26日、第1回検討会では、「課題、認識の共有化」を、平成26年6月23日、第2回検討会では、「対応の方向性、戦略の素案の検討」を、平成26年10月6日、第3回検討会では、「中間報告のとりまとめ」を、それぞれテーマとして検討を進めていきました。

4. 検討会の概要と今後の方向性

第1回及び第2回検討会においては、林木ジーンバンク事業の30年間の経緯、成果、問題点等を説明し、各委員から、林木育種の次世代化に必要な遺伝資源の収集戦略の必要性、情報収集の重要性、温暖化を視野に入れた希少遺伝資源の保全、地域の関係機関等とのネットワーク構築の必要性等についての検討が行われました。

第3回検討会では、これまでの議論を踏まえ作成した「林木ジーンバンク事業戦略(案)」を委員会に提案しました。図-1に戦略(案)の骨子を示します。各委員からは、全体的な方向性についての異論はありませんでしたが、用語の再検討、ニーズや方向性をしっかりと議論した上での新需要創出の必要性、育種事業との役割分担の明確化等についての意見が出されました。

今後、これらの意見を踏まえ修正した戦略を作成し、平成28年度より開始される次期中期目標・中期計画等の策定に反映させる予定です。

(遺伝資源部 遺伝資源管理主幹 木下 敏)

図-1 林木ジーンバンク事業戦略(案)の骨子

- 林木ジーンバンク事業で実施する重点課題等
- (1) 主要樹種の育種素材の補完－林木育種を支える基盤の整備－
 - (2) 有用樹種の新需要の創出への貢献－遺伝資源の充実と活用の強化－
 - (3) 脆弱な希少遺伝資源の保全
 - (4) 遺伝資源情報のネットワーク化
 - (5) 事業成果の社会への還元